

Wood Rise2023 参加レポート

2024 年 2 月 7 日

つくば建築試験研究センター
技術評価部 総括試験研究役 金城 仁

フランス ボルドーにて開催された Wood Rise2023（2023 年 10 月 16 日～18 日）へ参加してきました！

1. Wood Rise 2023 について

Wood Rise とは、中高層木造建築物の発展のため、2017 年より行われている国内外の業界関係者が一堂に結集するイベントです。

今回の Wood Rise 2023（以下、WR）のテーマは「建築環境の脱炭素化の先導」です。中高層木造建築物に関する最近の話題だけでなく、木造を推進することによる環境面や市場経済面などへの影響・課題にも焦点をあてており、3 日間で多岐にわたる情報を共有することができた会議でした。

筆者は、（一社）国際建築住宅産業協会（以下、JIBH）を事務局とする派遣団の一員として、設計事務所やゼネコン、ハウスメーカー、研究所、確認（評価）機関など、建築業に携わる多方面の職種の方々とともに会議へ参加しました。



Wood Rise2023 会場 Palais 2 l'Atlantique – Bordeaux



Wood Rise2023 派遣団

なお、今回の WR 開会式に先立ち、国際耐震コンテストが実施され、日本代表のチーム（京都大学五十田研究室）が優勝されたことをご報告させていただきます！おめでとうございます！！

2. 全体会議・基調講演

全体会議では木材を用いた「建築分野の脱炭素化」、「木材の新規市場開拓」及び「新興中高層木造建築プロジェクト」の3つのテーマについて、各国より発表が行われました。

本 WR 基調講演として、アメリカのグレッグ・ケリー氏により「木材デザインの革新と進化：エンジニア目線での建築コラボレーション」と題した講演が行われたので、概要を紹介させていただきます。

講演の内容は、建築家と協業した3つのプロジェクトについて、建築家のアイディアと木造の特徴をどのように融合させて技術的に実現可能としたのか解説したものでした。紹介されたプロジェクトの1つには、坂茂氏が設計した米国アスペン新美術館がありました。

この美術館は、RC造・S造・木造のハイブリッド構造を採用しています。建物全体を覆う格子状の構造には、木材を加工した合成樹脂加工木突板が使われ、屋根部分も木材で三次元的な湾曲を実現し、それらにより美しい造形が完成しています。

紹介された3つのプロジェクトのいずれも建築家や設計事務所とエンジニアによる試行錯誤を経て、木の特徴を活かす革新的なデザインが実現されたとのことで、木造建築物の更なる可能性が示された講演でした。

3. 展示エリア

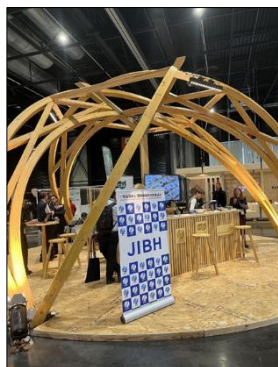
会議場には、海外各国の木造に関わる企業等（約 100 社）による展示ブースのエリアが設けられ、各ブースにおいて参加者同士が盛んに情報共有をしていました。日本は、特定の企業の展示ブースではなく、事務局のJIBHがブースを設け会員企業のパンフレットを紹介・展示することで、日本の木造建築技術を紹介していました。

4. テクニカルワークショップ

最終日は、全体講演とは異なり、各国の木造建築エンジニアによるテクニカルワークショップが行われ、木造建築物を取り巻く課題（構造・音環境・防火など）や今後の展望、森林資源の再利用など、多面的な視点に基づく発表・議論が行われました。

筆者は火災安全性をテーマにしたワークショップを聴講しました。火災安全性では7名のエンジニアの方が登壇され、日本からは国立研究開発法人 建築研究所の鈴木淳一氏が発表していました。

火災安全性に係るワークショップの中で、カナダのジョセフ・スー氏の報告が興味深かったので、紹介させていただきます。それは、火災後の消防活動が行われない場合や消火設備がない木造建築物で火災が発生した場合について、火災の拡大状況から鎮火までの経過をみる実験の報告でした。日本では実大規模の火災実験として無い規模のもので、とても貴重な実験・研究報告でした。



JIBH 展示ブース



カナダにおける大規模火災実験説明スライド

5. テクニカルツアー

会議終了後、テクニカルツアーとして「アルフォール国立獣医学校」、「国有機関 国家林業局」等を視察しました。

アルフォール国立獣医学校は、1766年に建設された建物の老朽化に伴って、改装により木造建築に再建した事例です。この建物では、エレベーターシャフトを除いた部分の木造率が約90%となっています。単に木造として再建するだけでなく、当時の建物に使用されていた煉瓦や開口部サッシの枠材など再利用することで、新旧材料同士の調和が取れた、大変落ち着いた感じのある外観の建物を実現していました。

国家林業局の建物も全体の8割が木造となっています。こちらは先の事例とは異なり、随所に現行の木造建築の知見や工夫を取り入れ、木の温かみを感じさせる開放的な建物となっていました。



アルフォール国立獣医学校



再利用されたサッシ装飾



採光拡散を考慮した配置



国有機関 国家林業局



吹き抜け空間上部に吸音材として設置した木材



6. おわりに

次回の開催は2025年の開催予定だそうです。今回の会議のテーマは「建築環境の脱炭素化の先導」でした。今後も引き続き、各国が木造建築の普及と建築分野における脱炭素化に向け、様々な観点からアプローチし、世界へ発信していく必要性を強く感じました。

<問い合わせ> 住所：〒102-0071 千代田区富士見 2-7-2

担当：広報部 (03-5211-1402)

